

会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成21年度第8回定例会会議記録
開催日時	平成21年11月25日（水曜日） 18時30分から20時40分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	会長：森忠 委員：西嶋剛昭、定盛秀俊、千葉桂子、古賀節子、柴山隼、大島眞之、福島憲子、加藤真理、上田幸夫 職員：相原館長、山本主幹、近藤係長、寺嶋分館長、小笠原分館長、玉木分館長
欠席者	渡辺文子、中嶋美沙子、須磨田純子、萩原建次郎
議題	(1) 第7回定例会の記録について (2) 報告事項 1 行政報告 2 事業計画書・報告書について 3 公民館だより編集室報告 4 都公連研究大会企画委員会報告 5 都公連委員部会運営委員報告 6 利用者懇談会報告 (3) 事務連絡及び情報交換 (4) 次回の日程について
会議資料の名称	(1) 事業計画書 1 乳幼児を子育て中のママの集い 人形劇で遊ぼうよ（田無） 2 社会課題を考える講座「地域の子育て支援と少子化を考える」（田無） 3 地域で創る教育ネットワーク講座（芝久保） 4 大豆びな講習会（芝久保） 5 ユング心理学講座（芝久保） 6 ビギナーズ現代学講座「出会いの風景・紛争地の人々」（谷戸） 7 Let's Try アカペラでハモろう（ひばり） 8 いざというときのために AEDの操作と応急手当の講習会（駅前） 9 わがまちの財政はどう変わったか 地方財政分析講座（駅前） (2) 事業報告書 1 小・中学生対象 フードコーディネーターによる料理&食材レッスン（田無） 2 和紙ちぎり絵講座 和紙が織りなす美のハーモニー（ひばり） 3 江戸文字凧絵講座「粋な凧が空を舞う」（ひばり）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input type="checkbox"/> 有り（人） <input checked="" type="checkbox"/> 無し
会議内容	
<p>(1) 第7回定例会の記録について</p> <p>○会長： 記録の修正についての申し出等を確認する。</p> <p>○職員： 委員からの申し出はないが、各委員に郵送後に漢字の誤植を発見した。訂正願いたい。</p> <p>○会長： ただ今の申し出に特に質問等なければ、1文字修正の上、配付した記録のとおりとする。</p> <p>(2) 報告事項</p>	

1 行政報告

○会長：

報告を受ける。

○館長：

1点目、埼玉県深谷市から駅前公民館の視察があった。深谷市でも商業ビルの中に複合公益施設を作るそうで、約30人が来館した。西東京よりも規模が大きく、スポーツ施設、図書館・公民館が入るそうだ。先方は、大変参考になったということであった。

2点目は、社会教育委員の会議に出席し、20年度事業の報告を行った。団体情報の一元化に関する期待の言葉があった。

○主幹：

17日に国土交通省の現地視察を受け入れた。保谷駅再開発事業に伴う町づくり交付金の成果確認のため。公民館・図書館も隔々まで視察を受けた。視察員からは、駅前の商業ビルに公益施設が入ったことに対する市民の反応についての質問が多かった。国としても、今後ともターミナルビル等への公益施設の導入を視野に入りたいという説明も受けた。

2 事業計画書・報告書について

○会長：

質問・意見を受ける。

○委員：

田無公のフードコーディネーター講座の参加者層は。
駅前公のAED講習会だが、公民館職員の受講状況はどうか。

○職員：

AED講習会は、利用者からの声によって企画することになった。職員の受講状況だが、職員2名は既に受講済みで、嘱託職員2人は来年度以降に受講予定だ。

○職員：

フードコーディネーター講座の参加状況だが、小学3年生2人、4年生14人、6年生2人、男女比は男3人、女15人で、中学生の参加は無かった。当日、エフエム西東京の番組取材を受けた。

○委員：

小学生3年生の参加者もあったようだが、保護者の送迎等は義務付けているのか。

○職員：

特に求めている。

○委員：

芝久保公の教育ネットワーク講座の小学生、中学生の抽出方法について聞きたい。また、23日と30日の運営方法についても確認したい。

○職員：

小学生は、地域の2つの児童館（西原、西原北）の職員に依頼して、各館10人の小学生を推薦してもらった。いずれも、よく児童館に出入りをしている子どもたちと聞いている。中学生は、芝久保公利用者連絡会に2～3人の生徒の推薦を依頼した。1月に入ったら、児童・生徒と打合せ会を持つ予定だ。

講師の谷口氏には両日のコーディネーターを依頼し、後藤氏は30日のみの参加。この講座は、2年目で、昨年度は運審の萩原氏に講師を依頼し、青年の居場所について学んだ。今年は、子どもの権利について法的な視点から学ぼうという趣旨だ。大人が子どもたちを地域で見守るネットワーク作りを目指したい。

23日の冒頭で子どもたちが30分程度登壇し、谷口氏のリードで子どもの本音を語ってもらう。それを受けて、両日にわたって参加者とともに事業目的を深めたい。

○委員：

谷戸公の現代学講座は時宜にあっており、素晴らしい内容と思う。写真の鑑賞も含まれているようだし、せっかくの機会なので、多くの若者や可能ならば小中学生の応募を受ける予定はないのか。積極的に若者を呼び込むアプローチがほしい。

○職員：

参考にさせていただく。早速講師とも相談したい。

○委員：

田無公のママの集いだが、保育欄は「保育無し」だが、備考欄には保育を行う記述がある。具体的に説明してほしい。

田無公の社会課題を考える講座は大変重要な課題であるが、一方重いテーマにも感じる。果たしてこのままの企画でどれくらいの人に参加するか心配になる。PRはどうなっているのか。

○職員：

公費による保育は予定していないが、市民グループが講座室内で幼児の面倒を見ながら実施することになっている。

社会課題を考える講座は、準備会を4回行ってテーマ設定をしたものだ。市民との協同による内容である。目的欄にもあるように、参加者が子育ての不安や悩みを共有することを目指す。

○委員：

市民周知の方法はどう考えているのか。

○職員：

公民館日より、チラシ、ポスター、HP等による。

○委員：

計画書を見る限りでは、誰れを対象に企画しているのかがよく見えない部分を感じる。この内容に興味を抱く人は、既に市民活動をしている方たちだろうと思う。そうした市民に声をかけるべきと思う。せっかくの内容なので、ぜひ多くの人に参加してもらいたい。

○職員：

私もまったく同じ感想を持ったため、担当者と話しをしたが、この講座の特徴は準備会によりテーマ設定をした点だ。既に数回の機会を通じ、担当者と準備会のメンバーが講師の選定も含めて議論を重ねている。甘いかもしれないが、ある意味では目的の一部は達成していると考えた。西東京の公民館では、過去余り行われてこなかった手法であり、そのあたりの評価してほしい。

また、こうした内容の講座は口コミが最も効果的であることは、そのとおりと思う。準備会のメンバーが中心となって行うことになるだろう。

○委員：

それであるからますます身近に感じるテーマ設定や企画を立ててほしい。準備会を立ち上げて作り

上げているということや西東京市の条例であり、計画であり、子育て支援に対する考えを勉強できるのだ、ということをもっとアピールすべきだろう。講師も、その策定に関わった人を選んでいるということも強調すべきだ。

○職員：

公民館だよりのPR記事には「西東京市における子育て支援策を学ぶ」という文言が入っている。努力したい。

○会長：

質疑を終結する。

3 公民館だより編集室報告

○会長：

報告を求める。

○委員：

11月号の反省。1面掲載の芝久保公民館まつりの下段の地図だが、もっと広域図を入れるべきではなかったかという意見があった。

3面の団体登録情報一覧の記事に誤植があった。公民館事業だが、ナチュラルヨガと薬膳講座は、申込み初日で満員になったという報告があった。また、講座の申込み時の間違い電話が発生した実態が報告されたため、12月号で注意喚起の記事を載せたい。

12月号1面は、あめんぼ青年教室35周年の記事。1月号は、文部省が作った「公民館」の紹介パンフレットと外国人の公民館利用者の声の記事。2月号は、昨年も行って好評だった講座参加者の声を予定したいという意見が出ており、検討中だ。

○委員：

1面に参加者の声を載せるのは、年に何回行うのか。

○委員：

今年度は初めてだ。

○委員：

私の知る限りでは、1面に参加者の声を掲載している公民館だよりは、全国的にも珍しいと思う。

○会長：

ほかになければ、質疑を終結する。

4 都公連研究大会企画委員会報告

○会長：

報告を求める。

○委員：

やっと分科会の人数分けが終わり、本日各位の出席分科会を記載した表を机上に配付したので確認してほしい。第1分科会の希望者が多数になったために、西東京市の参加者の中にも、第2希望の分科会に回ってもらう措置を講じた。後の分科会の希望は、全て第一希望ということだ。

今回は、最初から説明しているとおりで、全体会が無いために十分分科会の時間を確保している。いずれも、少人数でのグループ討議を予定しているので、どうか活発な議論を深めてほしい。

○職員：

補足したい。全体会が無いので、現地集合現地解散で対応してほしい。分科会の受付で、所属と氏名を述べてほしい。当日、体調不良等で欠席した場合のみ、後日柳沢公に報告してほしい。

○会長：

特に質疑がなければ、終結する。

5 都公連委員部会運営委員報告

○会長：

報告を求める。

○委員：

第7回の運営委員会に出席した。11月4日の第2回研修会の反省を行った。研修会への参加は14市から43人、事例報告者は国分寺の元委員で、現在も公民館の異世代交流実行委員の長谷部さん、東大和市の公運審委員長の武田さん、助言者は福生市の伊東館長だ。事例報告者からの報告を受け、7グループに分かれて研究協議をした。私も7グループ目の進行役を務めた。グループ参加者の発言で印象に残ったのは定例会の回数の差。狛江市が6回、東村山市は4回、稲城市と国分寺市が11回ということだ。参考になったことは、公運審の名札を作っている市が2市あった。名札をつけて館内を歩くことで、公運審をアピールするという目的があるそうだ。名札をつけて館内にいると、利用者から公運審って何をしているのか、という問いがあり、それに答えるきっかけができるという説明であった。助言者の提言に、公運審も事業の提案をすることができないか、そうした力量を求める要望があった。また、西東京から参加の委員から「公運審の会議が楽しい」という発言に、喝采の反応があったことを付け加えたい。

次回の研修会は2月頃の予定。小平市の公運審用の研修マニュアルについて、小金井市の事業企画実行委員の様子について、学ぶことにしてはどうかと計画を詰めている。

○委員：

事例の内容等に期待をして参加したところ、思った以上の内容だった。私のグループでも名札の報告があり、よいことだと感じた。会議回数が少ない市の委員からは、公運審が重要視されていないのではないかという、ぼやきにも近い意見が吐露された。また、ある市の委員は、公運審が何をすべきなのか分からず、こうした機会に参加したということで、とにかく多くの人と情報を交換していた。

私としては、国分寺市の異世代地域交流事業の話は大変参考になったし、福生のベテラン館長の話も面白かった。出席してよかったと思う。また、本多公民館の公運審だよりももらってきたので、後ほど見てほしい。

○会長：

暫時休憩する。

(19時22分休憩)

(19時32分再開)

○会長：

会議を再開する。

6 利用者懇談会報告

○会長：

報告を求める。

○職員（柳沢公）：

柳沢公民館の利用者懇談会は、10月15日の夜間と22日の午後に行った。それぞれの参加者は、15日が11団体13人、22日は17団体、20人の参加。

今回の利用懇での協議事項は3点で、最初に施設名称変更の影響は無かったか。次に、施設隣接の公共駐輪場が移転するための影響等について。最後に敷地内での喫煙についてだ。そのほか、この半年間の施設運営の状況報告をした。

まず施設名称変更についてだが、合併後からの迷惑に対するお詫びやら、昨年の施設名称アンケートへの謝礼を述べたが、この件に対しての意見などは上がらなかった。

次の駐輪場の移転問題についてだが、公民館用地に変更される部分を緑地化することについての異論は無く、移転に関しても、公民館利用者が普段使っている訳ではないので、これといった反応もなかった。むしろ、来年廃止になった後の影響が心配なため、公民館の駐輪場は公民館の利用者のためのものであるという市民の声を出してもらうようお願いしたところだ。

3点目の喫煙場所についてだが、私たちの予想に反し、喫煙者に対しておおらかな意見が多かった。もちろん、健康被害や玄関付近での喫煙を問題視する意見もあったが、大勢ではなく、敷地内「禁煙」というようなことにはならず、喫煙者にとって極端に不便にならないような場所に移転を検討してみてもどうか、という結論だった。

最後に、参加者から部屋の確保についての意見が上がった。ただし今回は、単に抽選に当たらずに困るといったシステムを批判するような意見ではなく、利用懇のような多くのサークルが集まる機会に部屋の利用方法について考える、または困っているサークルがあるということを理解してほしい、という趣旨の意見を述べられた。具体的には、特定の部屋でしか活動ができないサークルに対する配慮を他の団体も考えてほしい、という趣旨の意見で、柳沢では工作室が該当する。水道を必要とするサークル活動は工作室でないといけないが、工作室の予約には何の制限も無いので、音楽や会議にも使っているために活動日が限られてしまうというものだ。公民館を公平に使うという意味で抽選予約は理解できるが、抽選の申込み段階で目的に合った予約に心がけてほしい、という大変もったもんな主張であったため、引き続きこうした機会で見聞を広げてもらうことを依頼し、必要に応じて議論を重ねる約束をした。

柳沢公ではこの2回の懇談会以外にも、工作室を利用する陶芸サークルのための懇談会もこの時期に行っている。今年は2日に行った。施設管理に対する要求を述べる場ではなく、全サークルが参加するために、各会が活発に情報交換を行えるのが特徴だ。こうした、分野別、部屋機能別にこまめに市民との懇談を持つことも公民館職員の重要な役割と考えている。

○職員（田無公）：

10月19日の19時から行い、12団体14人の参加。公民館側からの説明の後、意見交換を行った。

囲碁サークルからの意見。偶然だが、2つの囲碁サークルが同日に活動を行うことがあった。自分たちは人数が少ないので碁盤が足りなくなるということは無かったが、もしも部屋が取れないことがあったら連絡しあって融通すればどうかということになった。よい交流にもなる、ということだ。因みに同時利用のケースを想定して、館でも碁盤を購入したことを報告した。

次に、予約システムに関する意見が出たことに端を発し、現在の3区分に対する異論が述べられたため質疑を繰り返したが結論は出なかった。

また、細かい要望だが部屋ごとの傘立の購入要望、団体連絡箱の鍵の不調などの意見が出た。

○職員（芝久保公）：

10月9日の18時から8団体10人の参加。

このところの懇談会では、まずはなぜ懇談会を行うのか、という意義について説明している。年2回のこの会では、利用者に民主的な話し合いの場を提供すること、また、職員と利用者が対等に意見交換や話し合いを行う場であること、さらには、館側のお願いやお知らせをする場であるという認識を高めてもらっている。

最初に公民館側のお願い事項として、照明やエアコンを使わないときには切ってほしいこと、忘れ

物には気をつけてほしいこと、部屋の鍵を持ち出さないでほしいことなど基本的な事項を述べた。その理由は、この夏にある団体が部屋の電気もエアコンもつけたままで、さらには鍵を掛けて館外に出て行ってしまうという事例が発生した。警備員が注意したところ、部屋を出るときに消灯することもエアコンを止めることも館内に掲示していないし、鍵を持って館の外に出掛けてはいけないという指導も受けていない、という開き直りをして、結局これらの対応を批判する上司への苦情というケースとなった。これに対しては、ポスターやチラシを貼ってはどうかという意見も出たが、ほとんどの団体はそのようなものの必要性を感じていないことと、館側に好意的な意見が寄せられ安心した。

次に、空調機の工事に伴う6月中の休館に対し、感謝を述べるとともに一層の省エネへの協力を依頼した。また、都営自治会との避難訓練を2月頃実施することなど報告した。

公民館事業に対する意見だが、22年度に希望する事業の声は上がらなかったが、21年に実施の平和事業についての質問が上がり、今後の継続的に実施するよう要望された。

喫煙場所の問題だが、昨年11月に玄関先から少しだけ場所を移動したために大きな問題にはならなかった。このまま分煙を続けてほしいという意見でまとまった。

最後に、芝久保公民館まつりが再来年で30周年を迎えることについての意見が出され、三中の生徒との地域交流ができないものか、例えば作品の展示からでもスタートできるよう学校長と調整してはどうかという意見が出た。参加者一同も公民館も前向きに検討することを確認した。

○職員（谷戸公）：

10月10日の午前に行い、20団体21人の参加。

谷戸では、以前から利用者統計に基づき曜日・区別の空室情報を説明している。時間帯等による空室の傾向を知らせて、公民館を満遍なく使ってもらおう工夫をしている。

公民館からのお願事項だが、団体登録の再提出が終了し、谷戸では185件の団体が登録していること、新型インフルエンザ対策を講じていること、施設利用のマナーについてなどだ。また、8月1日から創作室がオープンし、利用者に対するアンケート調査を行っているが、概ね良好の反応である。調査は今後も継続していきたい。

次に、21年度後期の事業計画と22年度の講座の希望などを確認したが、特に意見は無かった。

続いて意見交換を行った。喫煙所については裏口の一ヶ所に絞ったことを説明し、理解を促した。これにより、即日正面玄関の喫煙コーナーは撤去した。次に、公民館講座で部屋の確保をしてしまうので、団体利用ができなくて困っているという意見が出た。特に長期にわたる講座の場合、自分たちの使いたい部屋が取れないために活動に支障が出るという訴えだが、他に空いている部屋があることや創作室の空室が多いことなどを説明して理解を求めた。

○館長（ひばり公）：

分館長病欠のため、代替する。10月20日14時から15団体、15人の参加。

館側の説明としては4点、1つ目はインフルエンザ感染防止のアルコール消毒液の導入について。2つ目は、近隣住宅地への駐車禁止に関するお願い。3点目は、使用確認票の導入について、部屋の鍵と同時に渡すので退出時に協力してほしい旨説明した。最後は、会員募集等の館内掲示期間の内規について、今後は最長でも3ヶ月程度を上限にして効率よく掲示することを説明した。これにより、より見やすい掲示板を目指す。

利用者からの要望は大きく3点について。1つ目は、公民館の位置が分かりにくいのでバス通りと中原小方面に看板を設置してはどうか。回答、市道に設置するとなると道路管理課との協議が必要、また予算の確保もしなければならないが、検討したい。2つ目は、ひばり公の活動団体一覧を作してほしいというもの、これに対しては、10月から6館の団体情報が完成していることを説明した。3点目は、ロビーの照明が暗すぎるという指摘。夜間に職員の手違いで照明を落としてしまったことが原因と思われるので、今後は注意をすることを約束した。

○職員（駅前公）：

昨年7月に住吉公民館を移転してオープンし、1年余りが経過した。今は、利用者が施設に少しでも

慣れてくれるように心掛けている最中だ。そのような中、10月22日の19時実施した。7団体7人と公運審委員3人を加えて10人ということで、昨年同期と比して半減した。館側は館長を含めて5人で対応し、ゆっくりと丁寧に対応することを特に心がけた。

まずは、利用及び登録状況の報告だが、昨年7月から2009年3月までの数値と今年度上半期との比較を会議室ごとに説明した。また、9月時点での団体登録数が309団体にも及んでいる。昨年の利用懇においても住吉公民館当時よりも会議室が取りづらくなったとの意見が出され、それに対して当時も「団体登録数が90団体を超えたために会場の抽選倍率が上がってきている」と説明していることから、現状が理解できると思う。

次に、平成22年度事業方針としては、住吉公民館のよさを引き継ぎつつ、地域課題に取り組んでいくことを伝えた。また、8月に行った1周年コンサートは、合唱サークルの相互交流と活動報告をととした地域還元も果たせたものと考えており、今後も保谷駅前公民館を拠点とするサークルを支援する何らかの発表の場を考えていきたいとの説明をしたところだ。

次に、市民企画事業の状況を報告した。今年で3年目の市民企画事業だが、保谷駅前公民館ではパソコンの講座を1団体が行った。

次に施設の利用方法等について説明した。和室としての用途を考えていた第1会議室だが、部屋がなかなか確保できないために、絨毯引きで椅子を持ち込んでフル回転で利用していること、ロビー展示及び印刷等についてだが、展示は4階と5階で可能だが、パネルが高くて不便だという声があること、年に1度でなくそれ以上使いたいという要望が出ているので検討中であること、更に構造上の理由で画鋲の使用はできないので鎖を使うよう説明した。印刷機は空いていれば当日でも使用可能、土日の場合も事前に予約を入れれば使用可能であることを説明した。

そのほかの説明として、団体登録の更新が終了し、6館全体のサークル名簿による情報提供を開始したこと、ポスター・チラシの制限などについても説明した。これは、最近のことであるが「猫の里親を探しています」という類のポスターの掲示を依頼されたことがあり、あくまでも社会教育関係団体の活動内容を知らせるポスターを貼る場所であるというお願いをしたところだ。

続いて利用者の意見及び要望についてだが、まずは部屋の予約について。意見、部屋がほとんどれず代表の自宅を使用している。要望、部屋が取れないとき、公民館以外の施設で使えるところがないか情報提供をしてほしい。質問、部屋が取りにくい。時間の区分を細かくしたらもっと使いやすくなるのではないか。これに対しては、利用報告書を丹念に調べておいたので、それに基づき回答した。例えば2時間程度の利用時間の団体はほとんど無く、細かく区切ればむしろ使いにくくなるのではないか。公民館全体の課題でもあるので慎重に検討していく必要がある、と答弁した。因みに、昨年の利用懇でも「予約システム導入時に1日を4区分にするという市側の提案に対し、利用者が3区分の方が利用しやすいということで決まった経過がある」との説明をした経緯がある。質問、公民館は各団体が区分時間を有効に使っているのかを確認しているのか。もしも短時間の利用団体があるのなら、予約の取れた団体に打診をするのでその仲立ちをしてほしい。これに対しては、大変多くの団体が活動する中で、各団体の活動時間を把握することは困難であること、また、当選した団体の情報を提供することは、制度の趣旨からそぐわない事を説明した。今後、サークルの関係をいかに構築していくかが課題である。質問、第4会議室は当初のねらいどおり、若者の利用が多いのか。答弁、高校生や20代の若者によく使われている。以上だ。

○会長：

報告に対する質疑を受ける。

○委員：

駅前公の309団体は大変多いと思うが、練馬区の住民の団体も含まれているのか。

○職員：

区民だけの団体は登録できない。

○委員：

そうしたルールはあるのか。

○職員：

決めている。

○委員：

309もの団体があれば、当然部屋の確保は困難と思う。他館もこうした登録状況なのか。

○職員：

登録数イコール活動団体数でないことは付け加えたい。多少ばらつきはあるが各館3桁の登録数だ。

○委員：

懇談会に全て出席した訳ではないが、職員と市民との交流がうまくいっているという印象を持った。公民館活動とか社会教育の理念を地域に知らせる意図が感じられる報告もあった。

駅前公民館だが、ロビーで高校生が食べたり飲んだりをしているが、ごみの始末は大丈夫なのか。住吉公との比較だが、調理室の使い勝手についての意見はあるのか。

○職員：

大した面積のロビーではないが、それでも市民が交代でくつろいでいる。ごみを散らかす市民はいない。当初騒がしい若者もいたが、職員の声掛けで今は落ち着いている。

調理機能の第3会議室だが、どうにか2台でやり繰りしている。調理室ではないので、多目的に活用しながら、調理も行っている。調理専用の部屋と比較してしまうと問題は山積であろうが、市民は2台しかないことを承知の上でうまく活用しているということだろう。今のところ使い勝手に関する意見は出ていない。

○委員：

駅前公の報告には喫煙のことが無いが、どこで吸っているのか。

○職員：

ステアビル全体が禁煙であり、利用者への説明の必要は無いためだ。

○委員：

4ヶ所の利用懇に出席した。それぞれ報告内容にも特徴があり、異なる状況を見聞きできた。参加人数の差があるが、熱心に声掛けをした館は多く参加があったということだと思う。年に2回しかない機会なので、多くの人々に参加してほしい。

今回の駅前公民館の事業計画にあったAEDの講習会だが、利用懇の時に行ってもいいのではないか。公民館の非常口や防災面の説明なども実施してほしい。公民館は様々な人が使う施設でもあり、多くの人が集まる機会を利用すべきだ。

○会長：

質疑を終結する。

(3) 事務連絡及び情報交換

○会長：

事務局からの報告を求める。

○職員：

委員研修会を予定している。希望の内容や時期を知らせてほしい。例えば、講師が必要な場合はできるだけ早く決めてほしい。来月の定例会は、祝日の関係で第3水曜日であることを注意してほしい。

○委員：

他市の公運審の傍聴とか、近隣市の視察はどうか。

○職員：

可能と思うので、希望の市や視察目的を考えてほしい。

事務局案であるが、全国公民館大会のときに投影したような、公民館創設期の貴重な映像などを観ながら、60年の歴史を紐解くような機会を作ってはどうかと、あの映像を見ていて感じていた。当市の学識委員は、その分野の専門家でもある。

○会長：

今の2つの提案を元にして、正副会長に一任してほしい。

(「異議なし」の声あり)

そのように決する。

(5) 次回の日程について

12月16日(水曜日) 18時30分

於:田無公民館 第2学習室

○会長：

他に意見がなければ、閉会とする。